

らいてうの家 通信 27号

...平和・協同・自然のひろば...

2013.1.1

らいてうの家

〒386-2201 長野県上田市真田町 長十の原1278

TEL/FAX 0268 74 1385

NPO 平塚らいてうの会 〒112-0002 東京都文京区小石川5 10 20 5F

TEL/FAX 03 3818 8626

頌春

らいてうは、一番大切なものは「日本国憲法です。とくにその第九条は守らねばならない大切なものだとも思います。これは日本の理想であるとともに使命であり、日本の存在価値であり、誇りでもあるからです。」と、雑誌『日本』(1966年1月号)に書いています。今こそらいてうのこころざしを学び、つないで、大切にしていかななくてはと思います。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

軽井沢野鳥の森に悟堂さんとらいてうさんを偲んで

2012年11月5日に、軽井沢野鳥の森入口に設置された、中西悟堂さんの詩碑修復記念探鳥会&除幕式が行われました。中西悟堂の会から、らいてうの会にも参加のお誘いがあり、らいてうの家の大掃除の前日に4人が参加しました。星野温泉の初代会長星野嘉助氏は、悟堂さんと深い交友があったことから、悟堂さんの胸像と詩碑がここに置かれたのでした。悟堂さんは、カラマツとキツツキに触発されて詩をつくられたそうです。銅版の詩碑をはめ込んだ木材が破損したのをご覧になった悟堂さんの長女、小谷ハルノさんが設置者の軽井沢町に修復費の一部を寄付され、その完成を記念しての式でした。好天に恵まれ紅葉の美しい森の中、除幕式は小谷ハルノさん、軽井沢町長など40人近い参加者で行われました。参加者紹介の中で、らいてうさんと悟堂さんの友情に触れ「らいてうの会」からの参加も紹介されました。

除幕式に先立っての探鳥会では、安西英明さん(NHKラジオ 日曜あさいちばん)の案内で目からウロコのレクチャーに感激。その一端を紹介すると、自然界にあっては鳥や動物は消費者、植物は生産者。最初植物は陸上でコケ類として出現し、そこから茎を持ったシダが生まれ、さらに針葉樹となった。樹木の葉は、松のような針葉樹から始まっているので、1を基本とし、その両脇に葉が増えていくので奇数をもととする。森の持続可能性を支えているのは、生産者と消費者だけでは駄目で分解者の役割が欠かせない。キノコを食べられるかどうかだけでしか見ない人が多いのは残念、ウィルスが森をつくっている。野鳥観察では、一箇所を継続してみることが色々な発見につながる、など。わくわくする体験となりました。手のひらのようなモミジの葉先は5、7など奇数になっていて、なるほどと納得。(三留弥生)



左から小谷ハルノさんと中西悟堂協会の会長さん、軽井沢町長さん

初、初、初

昨年6月に野草の天ぷらをいただいた時が、初らいてうの家でした。次々揚がる天ぷらと岩魚の塩焼きで、お腹がいっぱいになりました。その後、らいてうの家に始めて入りステンドグラスの美しさと、床や壁、机と椅子の木のぬくもりに心が和みました。

2回目のらいてうの家が11月の初大掃除です。右手にタオル、左手に石けんを持って床に膝をつきごしごし磨く、水洗い。次の日は蜜蝋を塗るワックスがけ。2日間の作業を人海戦術で部屋の中、廊下、トイレ、台所、机に椅子に外の壁も。7年経っても新しさと木のぬくもりを感じさせるのは、ここにありと実感。

大掃除の2日間のお昼ご飯。上田や真田の方々の作ってくださったご馳走。おやき、漬物、煮物、炊き込みご飯、りんごに柿にいちじくにきのこ汁。お腹も感激。これを食べに来年も。(金輪きみ子)



両手で、力を入れて...ごしごし

記録映画「平塚らいてうの生涯」鑑賞会

「青鞥」100年から次の100年へ・・・女たちがつくる協同の世界・・・をテーマに、らいてうの家館長米田佐代子さんのお話4回と11月17日の記録映画「平塚らいてうの生涯」を50名で鑑賞し、2012年らいてう講座が終了しました。2時間20分という長い映画でしたが、「歴史は歴史、らいてうはらいてう」という見方ではなく、らいてうさんが「悩みつつ」思う道を歩んだ時代背景として、神宮外苑での学徒出陣の映像はじめ、歴史のわかる映像に、いつの間にか引き込まれていきました。いのちを産む性である女性の「いのちは殺してはならない」をはじめ、様々な生活実感を大事にしつつ、いつも社会全体をちゃんと見て、世界をみきわめ、世に訴え行動を起こす「平塚らいてう」についての理解が少し深まりました。亡くなる1年前、84歳で「安保条約反対」の意志表示のため、自宅周辺をデモ行進するらいてうさん！思ったことは何でも自分でやってみる人！すごい人には違いありませんが、自分の考えを人の前で演説するのは苦手な人！と知り、ほんの少しですがらいてうさんが身近な人のように思えたのは、私だけでしょうか？

先の衆議院選挙の結果、改憲勢力が多数を占めた現実に、らいてうの平和への思いのよりどころとなっていた「非武装・非交戦」を規定している日本国憲法9条を変えてはならない。母親運動をはじめとする日本の女性たちの運動を強め、新たな「協同の世界」を耕す時ではないかと思えます。

「元始、女性は太陽であった・・・」は、平塚らいてうの言葉として知っている程度の者にとって、「らいてうの家」が真田地区にオープンしていなかったなら、今も言葉程度は知っているレベルでいたと思います。平和・協同・自然のひろばとしての「らいてうの家」の存在は、上田地域の宝です。毎年行われる様々な活動を始め、らいてう講座は、一人ひとりが「自分で考え、行動する」力を身に着けるための学びの機会になっています。今回は、映画を見ることにより、講座でいただいた資料をきちんと読まなければ！と少しずつページをめくっているところです。学習できる機会に感謝しつつ・・・。（北澤良子）



*スノーシューと信濃の歴史を訪ねる旅

2013年2月17日(日)～18日(月)

「史跡探訪とそばを味わい、スノーシューで森の命をたずねる」(別紙チラシをご覧ください)

*2013年4月27日(土)「らいてうの家」オープン

4月27日(土)10:30～

オープニングは小山洋代さんの独唱、みんなでうたおう、お茶会など。

大掃除と反省会(2012年11月6、7日)

大掃除にはいつも多くの方のご協力をいただいています。今回も思いがけない飛び入りがありました。大掃除1日目に「大掃除やってみたかったの」という大河内さんが、2日目にはフルーティストの大和田さんが参加してくださってそれぞれ両手にタオルと石けん、蜜蝋ワックスを持って床磨きをしてくださいました。また、お掃除はできないからと大鍋いっぱいのお汁が届いたり お燗きや白燗の品々の持ち寄りもあり、2日間ともおいしい昼食になりました。

反省会では、「家」を中心にした案内マップを作ってはどうか、今まで実施した「昔語り」をまとめたい、国際協同組合同年ということもありコープ長野や農協にお願いに行ったり、来館してもらったりして、「家」が機関誌などに取り上げられよかったなど。絵手紙の会をやったら？笹刈り、山野草を楽しむ会はどうか？「紀要」を読む会は？バスツアーは？など新しいプランも出ました。また会員の平均年齢が高い、若返りが必要と厳しい現状指摘もあり、頭の痛い課題も出ました。

次の週には展示品の収納をして「家」は無事冬期閉館になりました。



大掃除1日目の昼食、この日もテーブルいっぱいにご馳走！！

NPO法人 平塚らいてうの会

東京都文京区小石川5-10-20 5F TEL・FAX 03-3818-8626

ゆうちょ銀行 口座 00150-9-553046 NPO平塚らいてうの会